

上野総合市民病院だより

◆医療安全管理の取り組みについて

市民病院では、患者さんやご家族が安心して医療を受けられるよう、医療安全管理室を中心に医療安全管理に取り組んでいます。医療安全管理室では、日々の医療の中で「ヒヤッとした」「少し気になった」などの報告を受け、院内で共有します。その後、原因を話し合い、同じことが起こらないよう再発防止を図っています。また、職員向けの研修やマニュアルの見直しを定期的に行い、安全意識の向上と知識の習得にも努めています。

医療の現場は、医師や看護師など多くの職種が関わっていて、職種の垣根を越えて情報を共有し、一つひとつの医療行為などを確認し、声をかけ合うことが重要です。小さな気づきを見逃さず、改善につなげることが安全な医療を提供するための基盤となります。

また、患者さんやご家族から情報を提供していただくことも医療の質と安全性を高めるためには重要

です。治療や薬について分からないこと、不安に感じたことがあれば、遠慮なく医療スタッフにお声がけください。

地域の皆さんに信頼され、安心して受診していただけるよう、今後も職員一丸となって医療安全管理の向上に取り組んでいきます。

(医療安全管理室 田中 鈴恵)



医療安全カンファレンス（意見交換）の様子

伊賀市の文化財 163

外山・鷺棚古墳群（外山）

今回紹介する外山・鷺棚古墳群は、柘植川右岸の丘陵上にある大小約30基の古墳です。

古墳とは、土を高く盛りあげた有力者の墓のことで、権威の象徴として3世紀半ば～7世紀に造られました。この期間を古墳時代といいます。

古墳にはいろいろな形があり、そのなかで最も格式が高いのが、鍵穴の形をした前方後円墳です。前方後円墳は、当時政治の中心であったヤマト政権の大王の墓であり、列島各地では政権と関係が深い有力者にのみ造ることが許されました。

市内には約1,200基余りの古墳が見つっていますが、前方後円墳は17基で、市内各地に有力者の古墳があったことがうかがえます。なかでも県内最大の古墳である御墓山古墳（佐那具町）は全国的にもよく知られています。

さて、外山・鷺棚古墳群について特筆すべきは、前方後円墳が4基含まれることです。これは、前方後円墳を造ることのできる有力者が、数世代にわたってこの近くを拠点に活躍し続けたことを示しています。ここに葬られた人たちは、御墓山古墳を造った人物に連なる存在であったかもしれません。

は、御墓山古墳を造った人物に連なる存在であったかもしれません。

古墳時代が終わり、奈良時代になると、古墳群のふもとに伊賀国の役所である伊賀国庁が置かれ、朝廷から派遣された役人たちがこの地を統括するようになります。前方後円墳に葬られた有力者たちの子孫は、役人たちの下で、代々培われた土地への理解や人望などの実力をもって、地方行政を担いました。

文化財課 ☎ 22-9678 FAX 22-9667



▲外山・鷺棚古墳群

明日に向かって～差別をなくしていくために～

環境と人権の交差点 —環境政策課—

現代社会において、環境問題と人権は切り離せない関係にあります。気候変動や大気・水質汚染は、私たちの暮らしや生活基盤を脅かす基本的な人権の問題です。

例えば、汚染された空気や水によって健康被害を受け、安全で健康的な生活を送る権利が侵害されたり、気候変動による自然災害は、生存権や生活の権利を脅かします。また、土壌や水資源の悪化によって農業や漁業が成り立たなくなると、生計手段を失い、貧困に陥る人が増えることが懸念されます。その結果、子どもが十分な教育を受けられなくなったり、働く機会が制限されたりと、世代を超えて貧困の固定化が進む危険性があります。

これらのことから、環境と人権は密接に関連していることがわかります。持続可能な開発目標 SDGs でも、より良い環境の持続と人権保障は一体の課題

として掲げられていて、気候変動への対応などによる地球環境の保全、持続可能な資源循環の推進や豊かな自然と生物多様性の保全などの環境対策を進める際には、人権の視点を取り入れる必要があります。

私たちができる具体的な行動として、次のようなものがあります。まず、日常生活においてリサイクルや省エネルギーを心掛け、環境負荷を減らす努力をすること。また、環境問題について学び、周囲に情報を発信することも重要です。

このように、私たちが環境問題の解決に向けて行動することは、結果として人権の保障にもつながります。より良い未来を次世代に引き継ぐため、私たちの選択と行動が、地球と人々の未来を作る力となることを忘れてはなりません。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ



「イガプロ」とは、「イガ」と「プロダクト（製品）」、「プロフェッショナル（専門家）」などさまざまな「プロ」を掛け合わせた造語です。

木村石鹸 木村石鹸工業株式会社

当社は2024年4月に100周年を迎えました。今もなお職人による手作業の釜焚き製法を用いて石鹸を製造しています。「非効率でも、最高の使い心地を追求し、納得の行く製品を開発して、皆さんの「暮らし」や「気持ち」を楽しく、気持ち良いものにしていきたい。」100年先までこの思いを胸に、真面目に誠実に、ものづくり・ことづくりに向き合っていきたいと考えています。

伊賀市の生産拠点は、IGA STUDIO PROJECT という名前がついていて、見学やイベントなどでお越しいただいた人を楽しませたいという思いを込めています。

当社は洗浄剤や化粧品を作っていて、その中でもおすすめはヘアケアブランドの「12/JU-NI」です。髪を本気で良くするための処方、髪に悩みがある人、自分に合うものが見つからない人は、ぜひ「12/JU-NI」をお試しください。

また、今年10周年を迎えた「SOMALI」ブランドは、天然素材の優しさで石鹸職人のこだわりが詰まった商品です。

◆若手社員のコメント

入社してから1年半程経ち、現在は主に粉末製品を中心に製造をしています。私は体が細く、入社してからしばらくの間は25kgの仕込み原料を持ち上げる力がありませんでした。しかし、先輩に助けをもらいながら持ち方のコツなどを教えていただき、今では当たり前のように粉末製品を仕込めるようになりました。初めの頃は仕事ができるのか不安でしたが、先輩が熱心に向き合ってくれたおかげで今の自分があります。先輩方には本当に感謝しています。



◆会社概要

【創業】1924年4月1日

【所在地】治田 3209-12

【社員数】伊賀市 24人・八尾市 42人

【事業概要】洗剤・化粧品の製造販売

【主な製品】シャンプー、コンディショナー、洗濯用石鹸など

【連絡先】☎ 20-9222

<https://www.kimurasoap.co.jp/>



問 商工労働課 企業誘致推進室 ☎ 22-9727 FAX 22-9695